

子ども教育 通信



こんなチカラが身に付く授業 国語



言葉を豊かにすることは、
子どもと同じ目線に立つことに、つながります。

たとえば「めっちゃ嫌!」と子どもが言ってきた時、どんな言葉を返すか。「めっちゃ」を、子どもの状況に合わせた具体的な言葉に言い換えて返せるかどうかは、子どもと意思疎通を図れるかどうかにつながります。この授業では、備えるべき日本語の素養、そして、幼稚園・小学校教諭として必要な、国語を教える力を身に付けます。言葉を豊かにすることが、相手と心を通わせるために欠かせないことであることを学び、将来、言葉の重要性を教えらるる先生になって欲しいと思います。今回の授業は「書写」。毛筆書きには、止め・跳ね・払いなど、文字を書くことの基本があります。「先生、書写って必要?」と訊かれたら、子どもが共感できる言葉で、しっかり教えてあげてほしいですね。



子ども教育学科
笠原茂子准教授



子ども教育学科1年
山内 萌果
| 勝山高校出身 |

何気なく済ませがちな行動を、
細かく見てあげるための基本。

鉛筆で書く時は何気なく済ませてしまっている「止め」や「払い」を、毛筆で書く時には細かく注意しなければいけません。そこから感じるの、「書写」の授業には先生として教えるための基本が凝縮されているということ。子どもの意見の一つひとつ反応してあげること、具体的な言葉で指摘してあげること、一緒にやって見せること…。国語とは、先生になるための入り口のように感じています。



子ども教育学科 活動レポート!

子ども教育学科の学生たちは、授業以外でも、ゼミや課外活動でさまざまな学びを得て、多様な視点から教育のあり方や考え方を培っています。

お兄さんお姉さんたちの大学ってどんなところ?

子どもたちの 大学探検スタンプラリー

～平成30年度越前市地域貢献活動支援補助金事業～

10月6日、普段、石川ゼミが中心となって学習支援を行っている市内の小・中学校の児童生徒を大学に招待。23名の子ども達が参加し、仁愛大学を探検しました。午前には、理科や図工のミニ講義を受けたりクイズに答えたりしながらスタンプを集め、ゴールの学生食堂へ。お昼は、カフェテリア方式で好きな料理を好きなだけ満喫! 午後からは、学生と体育館でレクレーションを楽しみました。



コウノトリの訪れる理由を、豊かな自然の中で考える!

里やま 夏の生きもの おどろき話

～平成30年 福井県若手環境リーダー育成事業～

8月17日、小学生を対象に、越前市坂口地区のエコビレッジ交流センターで、その周辺の水田・里山・休耕田・川という異なる4つの自然環境をフィールドに、生きもの観察会を実施しました。西出研の学生が各グループのリーダーとなり、写真に撮ったり図鑑で調べたりして、それぞれが「オリジナル生きもの図鑑」を作成。なぜこの地区にコウノトリが訪れるのかについても考えてもらいました。



貴重な機会に、障害者のサポートを自然に体験。

福井国体サポート ボランティア

第18回全国障害者スポーツ大会(福井しあわせ元気大会)に、子ども教育学科からも多くの学生たちが参加。普段、やりたいと思ってもなかなかできない体の不自由な方のサポートを、さまざまな交流を通して体験することができ、「自分の心の中にあった、ある種の垣根が無くなった」などの感想が聞かれました。皆が口を揃えて「あっという間の5日間だった」と話す、充実した貴重な経験となりました。



卒業生のリアルな声から感じる、仕事へのやりがい。

🌸 ホームカミングデー

大学祭期間中の恒例行事として毎年開催しているホームカミングデーに今年も大勢の卒業生が来学し、食事をしながらの和やかな雰囲気の中、先生や在学生との懐かしいひとときを過ごしました。仕事に対する思いや社会人生活の感想など、卒業生たちのリアルな声を聞いたことで、在学生は実際の仕事の大変さとともにやりがいを強く実感する機会になりました。

